

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	まんのう町			代表者名	栗田 隆義
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	地域振興課	連絡先電話番号	0877-73-0122
担当者役職	主査	担当者氏名	松下信重	連絡先E-mail	
住所	766-8503 香川県まんのう町吉野下430番地				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	連絡先E-mail

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	ひまわりオイル事業
概要	まんのう町の特産品であるひまわりの栽培において鳥被害が拡大している。いくつかの方策を検討しているが、その中の一つとして、IoT（Internet of Things）の活用についても検討をおこなっている。方策や実現可能な手段について情報技術の専門家に相談したい。		
支援を求める分野	EBPM（エビデンスに基づく政策立案） 農林水産業		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年5月21日	支援・助言(実地)	10時00分	12時00分	
				活動時間（分）	120
2-2.	会場名	まんのう町役場		最寄駅	榎井駅
派遣場所	所在地	香川県仲多度郡まんのう町吉野下430番地		最寄駅からの交通手段	徒歩

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	米谷 雄介
評価	良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	ひまわり畑に飛来する鳥の種類や時間帯を、鳥の鳴き声から検知するシステムのデモンストレーションを実施していただいた。実際に稼働するプロトタイプや具体的なデータに基づいて、追い払い・おびき寄せ等の対策が可能かどうかを検討する材料を得ることができた点は有意義であった。
アドバイザーへの要望事項	ひまわりが鳥害を受けるリスクが高い時期は、播種後1～2週間が経過した新芽の時期と、開花後に実を収穫する直前の約2週間である。この期間における鳥の飛来状況をデータとして観測できれば、鳴き声を活用して仲間を誘導し、ダミー畑へおびき寄せるなどの戦略的な対策が可能となる。今後はそのようなアルゴリズムの検討を進めるにあたり、引き続き専門的な助言をいただきたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	1人
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	1	0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	まんのう町では地域振興としてひまわりを栽培し、「まんのうひまわりオイル」や「黄色い魔法の洗顔せっけん」など、ひまわりを原料とした特産品の開発・販売を進めている。近年の気候変動などによる環境の変化により、鳥の飛来が増加し、スプラウトや種子の食害が深刻化している。町役場はこれまで様々な対策を試行してきたものの決定的な解決には至っていない。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	本事業では、ひまわり畑の鳥害対策においてEBPM（Evidence-Based Policy Making）を推進するため、鳥の飛来状況をコンピュータによりモニタリングする技術の具体化と検証を目指している。2025年度は、プロトタイプの作成と検証を繰り返すPoT（Proof of Technology）フェーズに位置付けており、今回の支援では、正確な鳥の飛来状況を把握するためのエビデンスを収集するSoR（System of Record）の要件を明確化することを目標とした。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	ロボット聴覚を活用し、鳥の鳴き声から滞在時間や種類を推定するシステムのプロトタイプを、実際にひまわり畑で稼働させていただいた。加えて、添付図に示すようなBI（ビジネスインテリジェンス）画面の提供も受けた。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	鳥が飛来する時間帯や種類を自動的に収集し、視覚的に把握する技術が現実的であることが確認できた。この成果を踏まえ、鳥の追い払い・おびき寄せを目的とした対策アプローチと連動させるため、今後はモニタリングシステムの設置場所やハードウェア構成を具体化していく予定である。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 今回は短時間の派遣であったため、プロトタイプのデモにとどまったが、今後、継続的に稼働可能なシステム設計に向けた重要な参考となる内容であった。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	- システムのハードウェア構成 ひまわり畑には電源が確保できる場所とできない場所がある。特に、電源のない中山地区は広大で、継続的なモニタリングの重点対象である。太陽光パネルやバッテリーなどの電源供給装置、盗難防止のためのウォールボックス、自立スタンドなどを含めたハードウェア構成の設計は、今後の検討課題である。 - モニタリング結果を活用した対策の具体化 アドバイザーからは、鳥の状況を把握する技術を紹介いただいたが、それに基づく具体的な追い払い・おびき寄せの対策には至っていない。町ではドローンを用いた追い払い実験も並行して行っているが、ひまわり畑が広大なため、一時的に追い払っても別の区画に移動するだけで、実質的な効果は限定的である。今後は、鳥が畑に到達する前に他のエリアに誘導するアプローチなども検討し、モニタリング結果と組み合わせた有効な対策を目指したい。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 今回は事業担当者1名とアドバイザーとのマンツーマンでのシステムデモの機械であったため、アンケートは取得していない。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	③現段階では課題・問題が残っているため未定 地域情報化アドバイザーから提供されたダッシュボードをもとに、データの有用性について関係者と議論を重ね、鳥の鳴き声の定常的なモニタリングに価値があると判断された場合は、ハードウェア構成や対策アプローチの具体化を進める。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	2024年度におけるひまわり畑の食害は60%を超えている。これを10%程度まで低減させ、ひまわりオイル関連商品や観光農園を安定的に供給できる環境を実現することが、本事業の最終目標である。	

5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可

☐掲載可

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good practices/past year all houkoku/>

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

